

ローマン・ギルシマン博士の訃

榎 一雄

(一)

イラン及びアフガニスタンにおけるフランス考古学調査団の長として長くその活動を指揮し、発掘調査とその成果の刊行とに輝かしい業績を挙げ、フランスのみならず世界におけるこの方面の最高権威として活躍していたローマン・ギルシマン (Roman Ghirshman, 1895. 10. 3~1979. 9) 博士は、昨一九七九年九月、フダバストにおける国際会議出張中急逝されたという。その逝去の事情については詳しい情報を得られないが、ここにその訃を伝えて哀悼の意を表するとともに、その業績の一端を記してその功業を偲びたい。

(二)

博士はもとロシアの人。一八九五年十月三日、ウクライナのヘルコフ (Kharkov, Khark'kov) に生まれ、一九二三年、フランスに移り、ソリ大学及び同大学大学院 (Ecole des Hautes Etudes)・ルウヴル学校 (Ecole du Louvre) に学び、シユイル (V. Scheil)・デュッソオ (R. Dussaud)・ロオ

(A. Lods) 諸氏に古代ペルシア系諸語・アッカド語・ヘブライ語及び ロントノオ博士 (Dr. G. Contenau) に東方考古学 (archéologie orientale) を学び、文学士 (Licence ès Lettres) の称号を得、一九四七年ソルボンヌの博士号を獲得した。

博士は、一九三〇—三二年、ドゥージュヌイヤック (l'Abbe H. de Genouillac) を団長とするペロオ調査団 (Mission de Tello for Telloh) に加って発掘に従事したのを皮切りに、一九三二—三三年、ロントノオ博士に招かれて、同博士を長とするルウヴル博物館 (ゴ博士はその東方古美術部副部長 conservateur adjoint au département des Antiquités Orientales) にペヘイランのネハヴァンド (Nehavand) に近いテヘンギヤン (Tépe Giyan) 調査団の副団長となった。テヘンギヤン第二回調査以後はギルシマン博士がその団長となり、独力でその指揮をとった。翌一九三三年に始まり、一九三四年、一九三七年と続けられた三回のカシヤン (Kashan) に近いテヘンギヤルク (Tépe Siyalk) 遺蹟の調査もギルシマン博士指揮のもとに行われたものであるが、両遺蹟の発掘はイランの先史・原史時代に関する膨大な量の資料を齎し、中でもテヘンギヤンの発掘ではスサの古代の陶器の分類についての決め手となる資料が出土し、特にテヘンギヤルクの発掘ではイラン人が始めてイラン高原に移住した頃の状態を伝える資料が出土したことで名高い。ギルシマン博士にイラ

ン民族のイラン高原への移動に関するいくつかの叙述や論考があるのは、そのためである。

一九三五年、一九三六年、一九三八—四一年、博士はルウヴル博物館アシマ美術部長ザル(Georges Salles, conservateur du département des Arts Asiatiques au Musée du Louvre)の主唱に基づいて、サーサーン朝のシャープール一世のビシヤプール(Bishapur)宮殿趾の発掘に従事したが、それはサーサーン朝の美術に関する知見を著しく増大せしめたものである。この発掘を併行して、一九三六年秋にはアフガン側のセイスタン(Seistan afghan)の沙漠のナディ・トマリ(Nadi-ali)に近づくパルシヤ・トルキスタン(Tépe Shurkh Dagh)を発掘し、紀元前第一千年紀の始めの遺物を世に出した。

一九四一年、アッカド(J. Hackin)博士の逝去の後を承けて「アフガニスタンにおけるフランス考古学調査団」(Délégation archéologique française en Afghanistan)の長に任ぜられた。そして一九四一年、一九四二年、一九四三年に亘って首都カーブル北方のベグラム(Begram)のクシヤン朝王都の遺蹟を発掘し、一九四三年にはセトクリアバド(Seiq-Abad)のユフタル民族の墳墓を発掘した。

一九四三年末、カーブルを去ってカイロに赴き、フランス東方考古学研究所長に任ぜられ、この研究所で一九四四年・一九四五年と一九四六年の一部分にかけてアフガニスタンで

の調査の報告書の作成と刊行とに従事した。

一九四五年、再びイランに帰り、ドゥミエックネム(M. de Mecquenem)の後任としてフランス考古学調査団を指揮し、一九六三年退任の時までこの職にあった。この間、毎年、数か月をスサとチュウガザンビル(Tchoga Zanbil)の発掘現場で過ごし、スサでは以前テベギヤン及びテベギンアルクで行ったと同じ、独創的方法を用いて発掘を行った。例えば、一九四六年「王都」に開鑿された層位作業場(chantier stratigraphique)では二十一年間に亘る組織的発掘の結果、十五の層位(niveaux)即ち都市が次次にその姿を現した。その最上層のものはイスラーム時代の始めのものであり、最下層即ち第十五層のものは、紀元前第十九世紀に属し、処女層に接している。チュウガザンビル即ちスサの南東五〇キロメートルにある古代のドゥル・ウラシタン(Dur-Urashi)では、紀元前十三世紀に建設せられ、紀元前六四〇年アッシュールバニパル王に滅ぼされた王都の遺蹟を調査した。特に一九五一年から一九六二年に至る九回の調査ではジクラート(Zi-bura)・寺院・王宮を発掘した結果、すばらしいニラム民族の建築と芸術とを解明する機会が与えられたのである。

スサとチュウガザンビルの二大重要遺蹟のほか、博士はいくつかの遺蹟を調査した。中でも一九四九年春にはバクティアリ(Bakhtiari)山脈のタンギルパバタ(Tang-i-Pabda)の

先史時代の洞窟を調査し、一九五〇年にはシャープール二世がスサの北西二五キロメートルのところに建造した都市エィワニケルカ (Eiwani-Kerkha) の遺蹟を調査し、王宮の遺蹟から美事なフレスコの装飾を発見したこと、一九五八年と一九五九年に調査したベルシャ湾のバルグ島 (Ile de Khang) の遺蹟、一九六四年から一九六六年にかけて調査し、パルティア時代の彫刻の残っている台場 (terrasses) を発見した、バクティアリ山脈の中のバルディニシヤンダー (Bardi-Nishandan) の遺蹟等は、特に注目すべきものである。

III

「イランにおけるフランス考古学調査団」の長を退いてからも、イラン考古学研究の手を緩めることがなく、毎年イランに出張して調査を継続した。その結果発見せられたスサの東二五〇キロメートルのマスギディスライマーン (Masgid-i Sulaiman) の紀元一世紀初頭のいへつかの寺院址とその美事な立像や浮彫、或ははバルディニシヤンダーとマスギディスライマーンの出土品の研究によって始めて明かにせられたエィマイード (Ejymaide) のパルティア芸術の価値についての業績の如きは、特筆に値するものであると言わなければならない。

博士は一九五六年から通信会員 (correspondant) として、

一九六五年からは正会員 (membre attire) として、金石文芸学院 (Académie des Inscriptions et Belles Lettres) に毎年その研究の成果を報告していたほか、エクスリアン・プロヴァンス [「大学」] 文学部名誉教授 (Professeur honoraire de la Faculté des Lettres d'Aix-en-Provence)、テハラン大学 (Université de Téhéran) 名誉教授であり、諸国の招聘に応じて講演や会議に赴き、一九六一年にはパリで開催せられた「イランの芸術七千年展」を組織して非常な成功を収めた。テハラン大学は博士の学績を讃えて名誉博士号を贈り、イラン政府は幾度かその功績を表彰した。

IV

以上の記述の中、第二、第三章は専ら一九七〇年ギルシマン博士の生誕七十五年を記念して同博士に献呈せられた記念論文集 (Archaeologica Iranica. Miscellanea in Honorem R. Ghisshman, Leiden: E. J. Brill, 1970 = Archaeologica Iranica, VI, VII et VIII) の巻頭に掲げられたヴァン・ギンベルク (L. Vanden Berghe) 教授の頌詞によったものであるが、次に掲げる著作目録もこの記念論文集に掲げられているもの (一九六八年まで) を、同じくヴァンデルベルク教授がその主宰するベルギーの国立ゲント大学の古代近東の考古学と文化史学科 (Seminarie voor de "Archeologie en de

Cultuurgeschiedenis van het Oude Nabije Oosten.” Rijks-universiteit Gent (Belgique) の二人の教習員の協力のもとに編纂した古代イラン考古学分類書目 (L. Vanden Berghé avec la collaboration de B. De Wulf et E. Haerincq, Bibliographie analytique de l'archéologie de l'Irân ancien, Leiden: E. J. Brill, 1978) と若干の手許の資料とで補ったものである。

なお、ギルシュマン博士の学績を記すに当って忘れてはならないのは、常に博士と共にあってその調査や特に出土品の整理修復を助けた博士夫人タニヤ・ギルシュマン (Tanja Ghishman) の協力である。夫人の回想録「我にもあらず考古学者ぞ」(Archéologue malgré moi. Vie quotidienne d'une mission archéologique en Iran, Neuchâtel: A la Baconnière et Paris: Albin Michel, 1970, 15.4×21.5 cm., 431 pp. avec une carte et beaucoup de gravures) は三十四章から成り、その中三章はアフガニスタンとカイロにおける生活の記録であるが、三十一章は一九三二年のネハヴァンドに始まるイランにおける三十一回の調査の記録であって、イランにおけるすべての発掘調査に際しての調査員相互の交渉、人夫や一般現地人との融合いについての詳しい記録である。特にスラヴ族出身のフランスの一女性が原始的な交通機関を乗継いで、緑のない、突兀たる岩山の連続しているイランの奥地

に入りこみ、乾燥した大陸性の気候とフランスとまるで異なる風俗習慣と不衛生な環境と戦いながら調査を続けて行くうちに、次第に「文明国」フランスの息のつまるような窮屈な環境から離れて、イランの自然の景観の壮大さ、美しさに眼を開かれて行く過程や、ハルコフを通過する際にそこにいるロシア人からバリ等の外国に逃れている同国人との連絡の依頼についての記述は、ギルシュマン教授の学術的報告からは期待し得ないヒューマンリドキエメントと言うべきであらう。

ロシアには夫君ポターニン (Grigoi Nikolaevitch Potanin, 1835-1920) と共に、一八七六年から九三年に至る十七年間蒙古・支那・東部チベット・シベリアを旅行し、幾つかの紀行を著したポターニナ女史 (Aleksandra Viktorovna Potanina, 1843-1893) があり、日本にも鳥居竜蔵博士を助けて蒙古の土俗学の調査に従ったその夫人きみ子氏がある。ポターニナ女史の紀行はまだ寓目の機を得ないが、鳥居夫人の著書「土俗学上より観たる蒙古」に寄せられた内藤湖南博士の序文の一節に、「巾幗の弱姿を以て筆を竜堆に載せ、夫妻筑筑として穹廬の中に相依る者首尾三載。竟に外君をして千秋未究の秘を発し、畝代不磨の名を成さしむ。佳話と謂わざるべけんや」とある。ギルシュマン夫人の場合は一九三三年の八月から一九六七年の四月に至る三十五年に亘っているのである。この著についてはもっと詳しく書くべきであるが、今

は省略する。

ギルシュマン博士の名はソ連大百科辞典(第三版)にも出てゐる。

一八九五年十月三日、ハリコフに生まれる。フランスの近東及び中東の考古学者・歴史学者。アカデミイ・フランセーズの会員、テヘラン大学の名譽博士号の所有者。一九三〇年イラクのテロオ(Tello)の発掘でその考古学研究を開始し、以後連年イランにおけるフランス調査団を率い、ギヤン・シフルクその他の遺物を調査した。一九三五年、ギルシュマンはサーサーン朝の町シャープールの発掘を監督した。一九三六からアフガニスタンで活動。一九四一年にフランス考古学調査団の長となった。一九四〇年代と五〇年代とは、ギルシュマンはイラン西部の、パフティ、アリ山脈中の新石器時代の洞窟とメタメネス王朝及び前アケメネス王朝時代以来のメサ附近の住居址とチュガリザムビル(Chogazambil)のヒラム人の遺物とを調査した。N. Ya. Merpert

私は一九五九年十一月博士の来日の際、東京大学での講演等について多少御世話をし、日本オリエンタ学会の機関誌日本オリエンタ学会月報(第二巻第九号、一一一〇頁)で博士の業績について概略を紹介した。以来二二年。当時博士夫妻が果物屋の店頭に山と積まれた柿の実の美事な色合を嘆賞し

て居られたことを憶ひ出す。この文章が世に出る頃は柿が色づいてゐるばかりであらう。

BIBLIOGRAPHIE DE R. GHIRSHMAN

I. GÉNÉRAL

L'Iran, des origines à l'Islam, Paris, 1951, 330 p., 105 fig., 73 ph., 5 cartes.

Iran, from the earliest Times to the Islamic Conquest, Harmondsworth (Penguin Books), 1e édition 1954, 368p., 108 fig., 48 pl. (『イランの古代文化』、岡崎敬・糸賀昌昭・岡崎正孝訳、東京、平凡社、1970年、416頁)

Les Parthes et les Sassanides, Collection „Univers des Formes”, Paris, 1962, 406 p., 449 fig., 5 cartes.

Edition anglaise: Iran—Parthians and Sassanians, London, 1962.

Edition américaine: Persian Art 249 B.C.—651 A.D., New-York, 1962.

Edition espagnole: Iran. Partos y Sasánidas, Madrid, 1962.

Edition italienne: Arte Persiana, Parte e Sassanidi,

Milan, 1962.

Édition allemande : Iran. Parther und Sasaniden, München, 1962.

Édition japonaise : Tokyo. 『古代イランの美術』(II), 新規矩男・岡谷公二訳, 東京, 新潮社(人類の美術 4), 1966年, 408頁.

Perse, Proto-iraniens, Mèdes, Achéménides, Collection „Univers des Formes”, Paris, 1964, 445 p., 590 fig., 5 cartes.

Édition anglaise : Persia from the Origins to Alexander the Great, London, 1964.

Édition américaine : The Arts of Ancient Iran from its Origins to the Time of Alexander, New-York, 1964.

Édition espagnole : Persia-Protoiranos—Medos—Aguemenidas, Madrid, 1964.

Édition italienne : Arte Persiana, Proto-iranica, Medi e Achemenidi, Milan, 1964.

Édition allemande : Iran—Proto-iranier, Meder—Achaemeniden, München, 1964.

Édition japonaise : Tokyo. 『古代イランの美術』(I) 岡谷公二訳, 東京, 新潮社(人類の美術 4) 1966年,

雑誌 歴史 學

449頁.

R. GHIRSHMAN, V. MINORSKY, R. Sanghvi, Persia, the Immortal Kingdom, New-York, 1971, 244 p., pl.

L'Iran et la migration des Indo-Aryens et des Iraniens, Leiden, 1977, 88p., 16 fig.

II. FOLLES

Die französischen archäologische Forschung in Iran und Afghanistan (1940-1951), *dans* Saeculum, 4. Band, 1953, p. 115-123.

L'archéologie française en Iran, *dans* „La revue de l'Enseignement supérieur de la France”, n. 3, 1959, pp. 101-112, 8fig., 1 carte.

Trente années de recherches archéologiques françaises en Iran, *dans* France-Asie, n. 164, 1960, pp. 1487-1493.

Oeuvre de la Mission archéologique française en Iran, *dans* Oriens, Hamburg, 1962, p. 57 sq.

Oeuvre de la Mission archéologique française en Iran, *dans* Panorama du Monde, 1962.

Recherches scientifiques françaises dans le domaine du passé de l'empire Iranien, *dans* Barrashtahyi Tarikhi (Revue de l'Armée Impériale), n. 4, 1967, pp. 1-6, 16 pl.

Oeuvre de la délégation archéologique française en Iran, *dans* Horizons Franco-Iraniens, décembre 1967.

A. MEDAIN

Appendice sur les fouilles de Medain, *dans* H. de Genouillac, Telloh, vol. II, 1935, pp. 139-150.

B. TÈPE GIYAN

Rapport préliminaire sur les fouilles de Tépé Giyan, *dans* Syria, vol. XIV, 1933, pp. 1-11, 14 fig. (en collaboration avec G. Contenau).

Prehistoric pottery found in Persia, *dans* The Illustrated London News, 1934.

Fouilles du Tépé Giyan près de Néhavend, 1931 et 1932, Paris, 1935, 144 p., 85 fig., XXIV pl. (en collaboration avec G. Contenau).

C. TÈPE SYALK

Une tablette proto-élamite du plateau iranien, *dans* La Revue d'Assyriologie et d'Archéologie Orientale, vol. XXXI, 1934, pp. 115-119, 1 fig.

Rapport préliminaire sur les fouilles de Syalk, *dans* Syria, vol. XVI, 1935, pp. 229-246, fig. 1-11, pl. XXXVII-XLIV. Pottery from a Persian site occupied many centuries B. C., fresh discoveries at Syalk, *dans* The Illustrated London

News, 16 March, 1935, pp. 416-417.

At Sialk, prehistoric Iran, *dans* Asia, vol. XX, 1948.

Fouilles de Sialk, près de Kashan, 1933, 1934, 1937, vol. I, Paris, 1938, 136 p., 11 fig., XLVI pl.

Fouilles de Sialk, près de Kashan, 1933, 1934, 1937, vol. II, Paris, 1939, 252 p., 22 fig., CI pl.

D. BISHAPUR (ЧАПУР)

Châpûr, Rapport préliminaire de la première campagne de fouilles, *dans* La Revue des Arts Asiatiques, vol. X, 1936, pp. 117-122, pl. XXXIX-XLIII.

L'inscription du monument de Châpûr I, à Châpûr, *dans* La Revue des Arts Asiatiques, vol. X, 1936, pp. 123-129, pl. XLIV.

Les fouilles de Châpûr, Iran, *dans* La Revue des Arts Asiatiques, vol. XII, 1938, pp. 12-19, pl. IX-XIV.

Shapur, royal city, I, *dans* Asia, vol. XXXIX, 1939, p. 716 sq.

Shapur, royal city, II, *dans* Asia, vol. XLV, 1945, p. 494 sq.

Fouilles de l'expédition française de la ville de Châpûr dans le Fârs, *dans* Comptes rendus de l'Académie des Sciences de l'U.R.S.S., vol. XV, 1947, p. 43.

Fouilles de Châpour, Bichapour, vol. I, Paris, 1971, 220 p., 17 fig., XL pl., 2 plans.

Fouilles de Châpour, Bichapour, vol. II, Les Mosaïques sassanides, Paris, 1956, 291 p., 74 fig., 5 plans. XXX pl. A propos de la Néropole B de Saïk, *dans* Jahrbuch für Prähistorische und Ethnographische Kunst (=Ipek), 1974/1977, vol. 24, pp. 41-49, 24-28.

E. NAD-I ALI

Fouilles de Nad-i Ali dans le Seïstan afghan, *dans* La Revue des Arts Asiatiques, vol. XIII, 1939-1942, pp. 10-22, pl. II-V, 4 fig.

F. SUSE

Une saison de fouilles à Suse (campagne d'hiver 1946-47) *dans* Comptes Rendus de l'Académie des Inscriptions et Belles-Lettres, 1947, pp. 444-449.

Une mosquée de Suse au début de l'Hégire, *dans* Bulletin d'Études Orientales, vol. XII, 1947-1948, pp. 1-3, 1 pl., 1 fig.

Campagne de fouilles à Suse en 1947-1948, *dans* Comptes Rendus de l'Académie des Inscriptions et Belles Lettres, 1948, pp. 328-336.

Suse I, *dans* Journal du Ministère de l'Éducation Natio-

onale de l'Iran, 1949.

Un bas-relief d'Artaban V avec inscription en pehlevi-arsacide, *dans* Actes du XXIème Congrès des Orientalistes, Paris, 1949, pp. 153-155.

Fouilles de Suse, campagne de 1948-1949, *dans* R. Grousset, L. Massignon et H. Massé, L'âme de l'Iran, 1949, pp. 69-74.

Un bas-relief d'Artaban V, avec inscription pehlevi-arsacide, *dans* Monument Piot, vol. XLIV, Paris, 1950, pp. 97-107, 2 fig., et 1 pl.

Suse II, *dans* Journal du Ministère de l'Éducation Nationale de l'Iran, 1950.

The Town which three hundred Elephants rased to the ground: The newly excavated fourth level of Susa and the Partho-Seleucid Necropolis, *dans* The Illustrated London News, 7 October 1950, p. 571-573, 17 fig.

Suse III, *dans* Journal du Ministère de l'Éducation Nationale de l'Iran, 1951.

Les fouilles de Suse, 1946-1951, *dans* La Revue des Arts, vol. III, 1951, pp. 187-188, 2 fig.

Cinq campagnes de fouilles à Suse, 1946/1951, *dans* La Revue d'Assyriologie et d'Archéologie orientale, vol.

- XLVI, 1952, pp. 1-18, fig. 1-21.
 Suse. Un village perse-achéménide. Mémoires de la Mission archéologique française en Iran, vol. XXXVI, Paris, 1954, 78p., 11 fig., 53 pl., 3 plans.
- Un miroir T'ang de Suse, *dans* *Artibus Asiae*, vol. XIX, 1956, pp. 230-233, 3 fig.
- L'Apadana de Suse, *dans* *Iranica Antiqua*, vol. III, 1963, pp. 148-154, pl. XLV-LII.
- Suse. Campagne de fouilles 1962/1963, *dans* *Arts Asiatiques*, vol. X, 1964, pp. 3-20, fig. 1-24.
- Suse au début du IIe millénaire avant notre ère et un sanctuaire iranien dans les monts des Zagros, *dans* *Comptes Rendus de l'Académie des Inscriptions et Belles Lettres*, 1966, pp. 375-382, 2 fig.
- Suse. Campagne de l'hiver 1964/1965. Rapport préliminaire, *dans* *Arts Asiatiques*, vol. XIII, 1966, pp. 3-32, fig. 1-30 (en collaboration avec M.J. Stève).
- Travaux de la délégation archéologique en Iran, hiver 1965-1966, *dans* *Comptes Rendus de l'Académie des Inscriptions et Belles-Lettres*, 1966, pp. 360-371, 5 fig.
- Recherches de la délégation archéologique française en Iran. Campagne de l'hiver 1965/1966, *dans* *Acta Archaeologica Academiae Scientiarum Hungaricae*, vol. XIV, 1966, pp. 249-253, 4 fig.
- Suse, *dans* *Iran*, Journal of the British Institute of Persian studies at Tehran, vol. V, 1967, pp. 142-144.
- Suse. Campagne de l'hiver 1965/1966. Rapport préliminaire, *dans* *Arts Asiatiques*, vol. XV, 1967, pp. 3-27, 32 fig. 1 carte.
- Suse et Masfid-i-Soleiman, *dans* *Archaeologia*. Paris, 1967, pp. 38-43.
- Suse au IIIe millénaire avant notre ère, *dans* *Comptes Rendus de l'Académie des Inscriptions et Belles Lettres*, 1968, pp. 402-410, 5 fig.
- Suse au tournant du IIIe au IIe millénaire avant notre ère *dans* *Arts Asiatiques*, vol. XVII, 1968, pp. 3-44, 51 fig.
- Merveilles du Musée de Suse, *dans* *Archaeologia*, Paris, 1968, pp. 52-59, 8 fig.
- Travaux de la délégation archéologique française en Iran, *dans* *Iran*, Journal of the British Institute of Persian Studies, vol. VI, 1968, pp. 162-163, 3 pl.
- The Elamite Levels at Susa and their Chronological Significance, *dans* *American Journal of Archaeology*, vol.

74, July 1970, pp. 223-225.
Susan, *dans* The Hebrew Biblical Encyclopaedia, vol. VII, 1979, pp. 609-617, 5 fig., 2 pl.

G. TCHOGHHA-ZAMBIL

a. *Rapports préliminaires*

1e campagne 1915-1952

Where the Elamite King Untash-Gal built a city in the 13th century B.C., New-Found Shrines of the Gods Insusinak, Nabu, Huban and Isnigarat, Excavating the Great Ziggurat at Choga-Zambil in Khuzistan, *dans* The Illustrated London News, 6 December 1952, pp. 954-955, 11 fig.

Recherches archéologiques dans la Susiane au cours de l'hiver 1951-1952, *dans* Comptes Rendus de l'Académie des Inscriptions et Belles Lettres, 1952, pp. 282-287.
Fouilles de la mission archéologique française en Susiane, 1951/52, *dans* Acta Archaeologica Academiae Scientiarum Hungaricae, vol. II, 1952, pp. 185-187.

2e campagne 1952-1953

Uncovering the "Tower of Babel" of Choga-Zambil: New Excavations in and around the great ziggurat of the elamite king Untash-Huban, *dans* The Illustrated London

News, 8 August 1953, pp. 226-227, 14 fig.

Une campagne de fouilles de la mission française en Susiane, *dans* la Revue Archéologique, vol. 42, 1953, pp. 1-9.

Fouilles archéologiques françaises en Susiane (Iran) 1952-1953, *dans* Acta Archaeologica Academiae Scientiarum Hungaricae, vol. II, 1953, pp. 123-126, 5 fig. Travaux de la mission archéologique en Susiane, en hiver 1952-1953, *dans* Syria, vol. XXX, 1953, pp. 222-233, 8 fig.

Travaux de la mission archéologique française de Susiane, *dans* Ars Orientalis, vol. I, 1954, pp. 173, 174, 6 fig.

3e campagne 1953-1954

Troisième de fouilles à Tchoga Zambil près Suse, *dans* Arts Asiatiques, vol. I, 1954, pp. 82-95, 15 fig. (=rapport préliminaire des trois premières campagnes).

Uncovering the "Tower of Babel", the Ziggurat of Tchoga Zambil, *dans* The Illustrated London News, 3 July 1954, pp. 13-15, 13 fig.

La Ziggourat de Tchoga-Zambil, *dans* Comptes Rendus de l'Académie des Inscriptions et Belles Lettres, 1954, pp. 233-238.

La Ziggourat de Tchoga Zambil, près de Suse, *dans* La

Revue Archéologique, vol. 44, 1954, pp. 1-6, 6 fig.
 Fouilles de Tchoga-Zanbil près de Suse (Iran), *dans* La
 Revue des Arts, vol. IV, 1954, pp. 169-170, 7 fig.

4e campagne 1954-1955

Quatrième campagne de fouilles à Tchoga-Zanbil près
 Suse (1954-1955), *dans* Arts Asiatiques, vol. II, 1955, pp.
 163-177, 16 fig.

The Ascent of a "Tower of Babel": uncovering the stair
 of Tchoga-Zanbil, *dans* The Illustrated London News, 25
 June, 1955, p. 1140, fig. 1-6.

The Ziggurat of King Untash-Huban: an Elamite Temple
 to Inshushinak, *dans* The Illustrated London News, 25
 June, 1955, p. 1141, fig. 7-10.

Travaux de la mission archéologique en Iran (hiver 1954-
 1955), *dans* Comptes Rendus de l'Académie des Inscrip-
 tions et Belles Lettres, 1955, pp. 322-327, 1 fig.

La Ziggourat de Tchoga-Zanbil, près Suse, dans la Revue
 archéologique, vol. 46, 1955, pp. 63-67, 6 fig.

La Ziggourat élamite de Tchoga Zanbil près Suse (Iran),
dans Acta Archaeologica Academiae Scientiarum Hunga-
 ricae, vol. VI, 1955, pp. 53-56, 8 fig.

The Ziggurat of Tchogha Zanbil, *dans* Archaeology, vol.

8, 1955, pp. 260-263, 10 fig.

Une Ziggourat élamite, *dans* Rapports Archéologiques de
 l'Iran, vol. III, 1955, 13 p., 10 fig.

5e campagne 1955-1956

Cinquième campagne de fouilles à Tchogha-Zanbil près
 Suse (1955-1956), *dans* Arts Asiatiques, vol. III, 1956,
 pp. 163-182, 23 fig.

Tchoga Zanbil's "Tower of Babel", The World's Greatest
 Ziggurat, *dans* The Illustrated London News, 8 September
 1956, pp. 387-389, 16 fig.

Nouvelles des fouilles effectuées à Tchoga Zanbil et à
 Suse (hiver 1955-56), *dans* Comptes Rendus de l'Acadé-
 mie des Inscriptions et Belles Lettres, 1956, pp. 137-138.

Cinquième campagne de fouilles à Tchoga Zanbil, près
 de Suse (1955-56), *dans* Comptes Rendus de l'Académie
 des Inscriptions et Belles Lettres, 1956, pp. 335-345, 1 fig.

Une Ziggourat élamite, *dans* Les Cahiers techniques de
 l'Art, vol. III, Strasbourg, 1956, pp. 31-35, 2 pl.

La Ziggourat de Tchoga Zanbil près Suse, *dans* la Revue
 archéologique, vol. 49, 1957, pp. 1-9, 10 fig.

6e campagne, nov. 1956-février 1957.

Tchoga-Zanbil, près Suse, Rapport préliminaire de la

sixième campagne, *dans* Arts Asiatiques, vol. IV, 1957, pp. 113-130, 27 fig.

"The Tower of Babel", now completely excavated: work at Tchogha-Zanbil, *dans* The Illustrated London News, 13 July, 1957, pp. 76-79, 16 fig.

Vie campagne de fouilles à Tchoga-Zanbil, près de Suse (1956-1957), *dans* Comptes Rendus de l'Académie des Inscriptions et Belles Lettres, 1957, pp. 231-421, 1 fig.
La Ziggourat de Tchogha-Zanbil près de Suse, *dans* Acta Archaeologica Academiae Scientiarum Hungaricae, vol. X, 1957, pp. 141-147, 15 fig.

7e campagne, nov. 1958-mars 1959

Temples and a Palace of the Elamites. New Finds at Tchogha-Zanbil, *dans* The Illustrated London News, 13 June 1959, pp. 1025-1027, 15 fig.

The Sacred Bull of Tchogha-Zanbil destroyed in 640 B.C. and now repaired, *dans* The Illustrated London News, 26 September 1959, p. 319, 5 fig.

Ville campagne de fouilles à Tchoga-Zanbil près de Suse (1958-1959), *dans* Comptes Rendus de l'Académie des Inscriptions et Belles Lettres, 1959, pp. 287-297, 1 fig.
Fouilles de Tchogha-Zanbil près Suse. Campagne de 1958

-59, *dans* Acta Archaeologica Academiae Scientiarum Hungaricae, vol. XI, 1958-1959, pp. 103-112.

Tchogha-Zanbil, Rapport préliminaire de la VIIe campagne (1958-1959), *dans* Arts Asiatiques, vol. VI, 1960, pp. 259-282, 29 fig.

Les Fouilles de Tchoga-Zanbil près Suse (7e campagne, hiver 1958-1959), *dans* la Revue Archéologique, vol. I, 1960, pp. 133-139, fig. 1-8.

The Ziggurat of Tchoga-Zanbil, *dans* Scientific American, vol. 204, 1961, pp. 68-76, 13 fig., 1 carte.

8e campagne, nov. 1960-février 1961

Tchogha-Zanbil, Rapport préliminaire de la VIIIe campagne (1960-1961), *dans* Arts Asiatiques, vol. VIII, 1961, pp. 121-138, 20 fig.

9e campagne, nov. 1961-février 1962

Tchoga-Zanbil, Rapport préliminaire de la IXe campagne (1961-1962), *dans* Arts Asiatiques, vol. VIII, 1961, pp. 243-262, 24 fig., 1 carte.

b. Rapports définitifs

Tchoga Zanbil (Dur Unash), vol. I, La Ziggurat (Mémoires de la Délégation archéologique en Iran, tome XXXIX), Paris, 1966, 134 p., 66 fig., 100 pl., 3 plans.

Tchoga Zanbil (Dur Untash), vol. II, Temenos, Temples, Palais, Tombes (Mémoires de la Délégation archéologique en Iran, tome XI), Paris, 1968, 159 p., 47 fig., 99 pl., 15 plans.

c. *Yartia*

Une hache votive au nom du roi élamite Silhak Insusinak, *dans* Iraq, vol. XXII, 1960, pp. 210-212.

La tour sacrée de Tchoga-Zanbil, près Suse (Iran), *dans* Bible et Terre Sainte, vol. 35, 1961, pp. 4-11.

L'Élam et les recherches à Dur-Untashi (Tchoga-Zanbil), *dans* Iranica Antiqua, vol. III, 1963, pp. 1-21, 1 carte, 3 plans, 12 fig.

H. ÎLE DE KHARG

Île de Kharg, dans le Golfe Persique, *dans* Arts Asiatiques, vol. VI, 1959, pp. 108-120, fig. 1-12, 1 carte.

L'île de Kharg dans le Golfe Persique, *dans* Comptes Rendus de l'Académie des Inscriptions et Belles Lettres, 1959, pp. 261-270, 1 fig.

L'île de Kharg (Ikaros) dans le Golfe Persique, *dans* la Revue Archéologique, vol. 51, 1959, pp. 70-77 fig. 1-8.

Île de Kharg. Guide publié en persan, français et anglais (1e éd. 1960, 2e éd. 1964, 3e éd. 1965) par le Consortium

du Pétrole de l'Iran, Téhéran, 1960, 16 p., 16 fig.
The Island Kharg, Teheran, 1971, 24 p., 15 pl.

I. BARD-I NISHANDAN ET MASDJID-I SUTAIMAN

Bard-e Nechandeh. An Archaic Sanctuary of the Priests of Ahura Mazda, which recalls Herodotus "Account of Persian Religion", *dans* The Illustrated London News, 4 July, 1964, pp. 14-15, 8 fig.

Bard-e Nechandeh. Fouilles de la Mission archéologique française, printemps 1964, *dans* Acta Archaeologica Academiae Scientiarum Hungaricae, vol. XVII, 1964, pp. 241-245, 12 fig.

Bard-i Nechandeh, *dans* "Revue de la Société Nationale du Pétrole Iranien, automne, 1964".

Bard-e Nechandeh, *dans* Comptes Rendus de l'Académie des Inscriptions et Belles Lettres, 1965, pp. 185-196, 1 fig.
Bard-e Nechandeh. Rapport préliminaire de la seconde campagne (mars 1965), *dans* Syria, vol. XLII, 1965, pp. 290-310, pl. XX-XXI, fig. 1-16.

Eternal Worshipers at Bard-e Nechandeh, *dans* The Illustrated London News, 26 June, 1965, pp. 30-31, 7 fig.
Two mazdean fire temples in the Persian fields (Bard-e Nechandeh and Masdjid-i Sultaiman), *dans* The Illustrated

- London News, 16 July, 1966, pp. 18-19, 10 fig.
- Masjid-i Solaiman ou mosquée de Salomon, *dans* Comptes Rendus de l'Académie des Inscriptions et Belles-Lettres, 1968, pp. 8-15, 3 fig.
- A 3000 year-old Persian Sanctuary (Masjid-i Sulaiman), *dans* The Illustrated London News, 6 July, 1967, pp. 26-27, 8 fig.
- Bard-è Nechandeh. Centre religieux Iranien, *dans* Acta Archaeologica Academiae Scientiarum Hungaricae, vol. XIX, 1967, pp. 3-14, 20 fig.
- La terrasse sacrée de Masjid-i Soleiman (Iran), *dans* Comptes Rendus de l'Académie des Inscriptions et Belles-Lettres, 1969, pp. 482-494, 7 fig.
- La terrasse sacrée de Masjid-i Solaiman, *dans* Iran, vol. 9, 1971, pp. 173-174, pl. I-V, a, b. (campagnes de 1969 et 1970).
- La terrasse sacrée de Masjid-i Solaiman, *dans* Iran, vol. 9, 1971, pp. 173-174, pl. I-V, a, b. (campagnes 1969 et 1970).
- La terrasse sacrée de Masjid-i Solaiman (campagne de 1970), *dans* Comptes Rendus de l'Académie des Inscriptions et Belles-Lettres, 1971, pp. 653-665, 5 fig.
- Masjid-i Solaiman, *dans* Iran, vol. 10, 1972, p. 171, pl. IV-VIII.
- Cinquième campagne de Masjid-i Solaiman, *dans* Revue Nathéez de Masjid-i Soleiman, 1972.
- Les sanctuaires de Masjid-i Solaiman (Iran), *dans* Comptes Rendus de l'Académie des Inscriptions et Belles-Lettres, 1972, pp. 30-40, 9 fig.
- Terrasses sacrées de Bard-è Nechandeh et de Masjid-i Solaiman. L'Iran du sud-ouest du VIII^e s. av. notre ère au Ve s. de notre ère, Mémoires de la délégation archéologique en Iran, vol. XLV, Paris, 1976, vol. 1 : 350 p., 58 fig., IX plans ; vol. II : CXXXVI pl. et 82 pl.
- Masjid-i Sulaimân*
- Terrasse sacrée de Masjid-i Solaiman, *dans* Acta Antiqua Academiae Scientiarum Hungaricae, vol. XIX, 1971, pp. 255-258, XXXVI pl.
- Histoire de la terrasse sacrée de Sar Masjid à Masjid-i Sulaiman, *dans* Revue Nathéez de Masjid-i Solaiman, 25 avril, 1972.
- La terrasse sacrée de Masjid-i Solaiman, *dans* Archaeologia, n. 98, juillet, 1972, pp. 57-64, fig.
- Qal'ah-i Bardi et Qal'ah-i Lit.*

La terrasse sacrée de Masid-i Soleiman, 1970, *dans* Comptes Rendus de l'Académie des Inscriptions et Belles-Lettres, 1971, pp. 653-665, 5 fig.

La terrasse sacrée de Masdid-i Solaiman, *dans* Iran, vol. 9, 1971, pp. 173-174, pl. V b.

Terrasses sacrées de Bard-è Néchandeh et de Masid-i Solaiman. L'Iran du sud-ouest du VIII^e s. av. notre ère au Ve s. de notre ère, Mémoires de la délégation archéologique en Iran, vol. XLV, Paris, 1976, vol. 1:350 p., 58 fig. IX plans; vol. 2: CXXXVI pl. et 82 pl.

III. ÉPOQUE PRÉHISTORIQUE

Notes sur les peuples et l'art de l'Iran préhistorique, *dans* la Revue des Arts Asiatiques, vol. X, 1936, pp. 23-36, fig. A-H.

Early civilisation of Iran. New-York, *dans* Asia, 1937.

Statuettes archaïques du Fars, Notes iraniennes XII, *dans* Artibus Asiae, vol. XXVI, 1963, pp. 151-160, 12 fig.

IV. ÉPOQUE ÉLAMITE

L'architecture élamite et ses traditions, *dans* Iranica Antiqua, vol. V, 1965, pp. 93-102, 6 fig.

La déesse nue élamite, *dans* Archologische Mitteilungen aus Iran, Neue Folge, vol. 1, Téhéran, 1968, pp. 11-13, pl. 1-2.

Deux statuettes élamites du Plateau Iranien. Notes iraniennes XVI, *dans* Artibus Asiae, vol. XXX, 1968, pp. 237-248, 10 fig.

V. ÉPOQUE PROTOHISTORIQUE

Le trésor de Sakhez, les origines de l'art mède et les bronzes du Luristan, *dans* Artibus Asiae, vol. XIII, 1950, pp. 181-206, fig. 1-25.

Le dieu Zurvan sur les bronzes du Luristan. Notes iraniennes VIII, *dans* Artibus Asiae, vol. XXI, 1958, pp. 37-42, fig. 1-3.

Rich treasures of Persian Animal Art. Recently discovered Gold, Silver and Bronze Masterworks of Ancient Iranian Artists, *dans* The Illustrated London News, 2 April, 1960, pp. 550, 551, 7 fig.

Têtes funéraires en terre peinte, des tombes élamites, *dans* Mélanges du Professeur Hangan. Mitteilungen der Anthropologischen Gesellschaft in Wien, vol. XCII, 1962, p. 149.

A propos des Bronzes du Luristan de la collection M. Foroughi, *dans* Iranica Antiqua, vol. II, 1962, pp. 165-179, 22 pl.

Le trésor de l'Oxus, les bronzes du Luristan et l'art médé, *dans* Festschrift Anton Moortgat, Berlin, 1964, pp. 88-94, vof. 17-19.

Invasion des nomades sur le plateau Iranien aux premières siècles du I^{er} millénaire avant J.-C., *dans* Dark ages and nomads, c. 1000 B.C. Istanbul, Publications de l'Institut Néerlandais, vol. XIII, 1964, pp. 3-8.

Deux oeilères en bronze des rois d'Urtatu, Notes iraniennes XIV, *dans* Artibus Asiae, vol. XXVII, 1964, pp. 49-60, 9 fig.

Deux bronzes des rois d'Urtatu, Notes iraniennes XV, *dans* Artibus Asiae, vol. XXVIII, 1966, pp. 219-220, 4 fig.

Un précurseur urartien d'Apollon Phlésiôs, *dans* Mélanges Franz Altheim, vol. 1, 1969, pp. 35-41.

VI. ÉPOQUE ACHÉMÉNIDE

Masjidi Solaiman, résidence des premiers achéménides, *dans* Syria, vol. XXVII, 1950, pp. 205-220, pl. III-VIII.

A propos de Persepolis, Notes iraniennes VII, *dans* Artibus Asiae, vol. XX, 1957, pp. 265-278, 11 fig.

Les premières capitales achéménides, *dans* La Revue Iranienne d'Anthropologie, 1960.

Un plat achéménide de la collection Foroughi, Notes iraniennes X, *dans* Artibus Asiae, vol. XXIV, 1961, pp. 39-43, 4 fig.

Une civilisation achéménide et l'Urtatu, *dans* Mélanges Taqi-Zadeh, London, 1962, pp. 85-88.

A propos de l'écriture cunéiforme vieux-perse, *dans* Journal of Near Eastern Studies, vol. XXIV, 1965, pp. 244-250.

* Articles "Sushan" et "Persepolis", *dans* International Standard Bible Encyclopedia.

Les palais achéménides à Persepolis et à Suse, *dans* Mélanges Saïd Nafcy, publiés par l'Université de Téhéran (à paraître).

VII. ÉPOQUE PARTHE

La Tour de Nourabad. Étude sur les temples Iraniens anciens, *dans* Syria, vol. XXIV, 1945, pp. 175-193, 17 fig., pl. XII-XV.

Trois monnaies parthes inédites, *dans* American Numismatic Society Centennial Publication, New-York, 1958, pp. 279-284.

VIII. ÉPOQUE SASSANIDE

Firouzabad, *dans* Bulletin de l'Institut français d'archéologie orientale du Caire, vol. XLVI, 1947, pp. 1-28, 2 fig., 9 pl.

Un plat sassanide en argent doré, *dans* Artibus Asiae, vol. X, 1947, pp. 89-99, fig.

Un ossuaire en pierre sculpté. Recherches sur les coutumes funéraires sassanides, Études iraniennes II, *dans* Artibus Asiae, vol. XI, 1948, pp. 292-310.

A propos des bas-reliefs rupestres sassanides, Notes iraniennes III, *dans* Artibus Asiae, vol. XIII, 1950, pp. 86-98, 13 fig.

Inscriptions en pehlevi des plats assanides du Musée de l'Ermitage, *dans* Bulletin of the School of Oriental and African Studies, vol. XIII, 1951, pp. 916-919.

Scènes de banquets sur l'argenterie sassanide, Notes iraniennes V, *dans* Artibus Asiae, vol. XVI, 1953, pp. 51-76, 21 fig.

Une coupe sassanide à scène de chasse, Notes iraniennes VI, *dans* Artibus Asiae, vol. XVIII, 1955, pp. 5-19, 13 fig.

Argenterie d'un seigneur sassanide, *dans* Ars Orientalis, vol. II, 1957, pp. 77-82, 15 fig.

Argenterie sassanide. Exposition de Bruxelles. Publication du Gouvernement Iranien, 1958.

Une coupe sassanide à scène de chasse, de la collection M. Foroughi, Notes iraniennes IX, *dans* Artibus Asiae, vol. XXII, 1959, pp. 48-52, 2 fig.

Trois épées sassanides, Notes iraniennes XIII, *dans* Artibus Asiae, vol. XXVI, 1963, pp. 293-311, 13 fig.

Le Triomphe de Chapour I, *dans* Mitteilungen des Instituts für Orientalforschung, Band XI, 1965, pp. 3-6, 2 pl.

Une coupe sassanide à scène d'investiture. Mélanges W. B. Henning, 1970, pp. 175-179, 2pl.

* Disque en bronze à décor ternaire, *dans* Mélanges Kurt Erdmann, publiés par l'Université d'Istanbul.

IX. VARIA

A propos de gignun. Mélanges publiés par Jinbunkagaku Kenkyusho Kyoto University, pour le 25ème anniversaire de l'Académie de la culture orientale. Université de

Kyoto, 1954, pp. 167-174.

Anneaux destinés à tendre la corde de l'arc, *dans* Syria, vol. XXXV, 1958, pp. 61-72, 12 fig., pl. III-IV.

Le rhyton en Iran, Notes iraniennes XI, *dans* Artibus Asiae, vol. XXV, 1962, pp. 57-80, 33 fig.

Fibule en Iran, *dans* Iranica Antiqua, vol. IV, 1964, pp. 90-107, 3 fig., pl. XXII-XXXII.

* L'or de l'Iran (en collaboration avec P. Amandry).

Une monnaie de Ziyad I, Abu Sofan, gouverneur du Fars, *dans* Mélanges Syriens offerts à M.R. Dussaud, vol. II, 1940, pp. 679-701, 1 pl.

La Perse et l'affirmation de son art, Les Parthes et les Sassanides, *dans* R. Huyghe. „L'Art et l'Homme”, vol. II, Paris, 1958, pp. 15-27, fig. 42-79.

Arte dell'Iran pre-Sasanide, *dand* Le Civiltà dell'Oriente, vol. IV, Roma, 1962, pp. 321-380, 22 pl.

Iranico-persanide *dans* Enciclopedia Universale dell'Arte, vol. VIII, Venezia-Roma, 1963, pp. 393-416.

Iranian pre-sassanian Art Cultures, *dans* Encyclopedica of World Art, vol. VIII, New-York, 1963, pp. 247-286.

* L'instruction dans l'Iran Antique, *dans* Revue de la Faculté des Lettres de l'Université de Téhéran (in me-

morian des Professeurs V. Minorstky et W.B. Henning.)

Le Couronnement de leurs Majestés Impériales le Shah et la Chahbanou d'Iran. Album d'aquarelles et dessins d'Yves Breyer, texte de R. Ghirshman, 1968.

Disque en bronze à décor ternaire, *dans* Forschungen zur Kunst Asiens, Festschrift K. Erdmann, Istanbul, 1969, pp. 9-17, 9 fig.

Une coupe sassanide à scène d'investiture, *dans* W.B. Henning Memorial Volume, 1970, pp. 175-179, 2 pl.

Le Pazunu et les fibules du Luristan, *dans* Mélanges de l'Université St. Joseph, Beyrouth, 1970-1971, vol. 46, pp. 120-127.

A propos du trésor de Ziwiyé, *dans* Journal of Near Eastern Studies, vol. XXXII, 1973, pp. 445-452.

T. CUYLER YOUNG, GHIRSHMAN, History of Iran, *dans* Encyclopedica Britannica, 15th ed., 1974, pp. 829-862, 3 pl., 3 cartes.

L'Art Animalier aulique achéménide, *dans* Monuments et Mémoires, Fondation E. Piot, vol. LX, 1974, pp. 11-28, 20 fig.

Un tetradrachme d'Andragoras de la collection de M. Foroughi, *dans* Near Eastern Numismatics, Iconography,

Epigraphy and History, Studies in Honour of G. Miles, Beirut, 1974, pp. 1-8.

Les scènes d'investiture royale dans l'art rupestre sassanide et leur origine, *dans* Comptes Rendus de l'Académie des Inscriptions et Belles-Lettres, 1974, pp. 35-42, 4 fig.

La frontalité dans l'art iranien et ses origines, *dans* Comptes Rendus de l'Académie des Inscriptions et Belles-Lettres, janvier-mars 1975, pp. 51-60, 5 fig.

La frontalité dans l'art iranien et ses origines, *dans* Comptes Rendus de l'Académie des Inscriptions et Belles-Lettres, janvier-mars 1975, pp. 51-60, 5 fig.

Chapour Ier "roi des rois" sans Couronne, *dans* Acta Iranica, vol. IV, (=Monumentum H.S. Nyberg, I), 1975, pp. 257-267, pl. XXII.

La fibule en Iran II. Collection de M. Foroughi, *dans* Iranica Antiqua, vol. XII, 1977, pp. 21-31, IX pl.

La religion de l'Iran du VIII^e siècle avant notre ère à l'Islam, *dans* Colloques internationaux du Centre national de la recherche scientifique, No. 567 : Le plateau iranien et l'Asie centrale dès origines à la conquête islamique. Leurs relations à la lumière des documents archéologiques,

Paris, 22-24 mars 1976, Paris : Éditions du Centre national de la recherche scientifique, 1977, pp. 343-348.

La formation quadripartite des tribus perses, *dans* Prolegomena to the History of Pre-Islamic Central Asia, ed. by J. Harmatta, Budapest, 1979, pp. 73-83.

*Tombe princière de Ziviyé et le début de l'art animalier scythe, 1979, 49 pp., 2 pl., Publications de la Société Iranienne pour la conservation du patrimoine national.

X. EXPOSITIONS

Exposition d'art iranien à Rome, *dans* Artibus Asiae, vol. XIX, 1956, pp. 137-142, 3 fig.

Catalogue de l'exposition, "Sept mille ans d'Art en Iran" au Petit Palais à Paris, octobre 1961-janvier 1962, Paris, 1961, 209 p., 120 pl.

Exposition d'Art Iranien à Paris, octobre-décembre 1961, *dans* Iranica Antiqua, vol. I, 1961, pp. 202-204.

Quelques aperçus de l'Exposition d'Art en Iran à Paris, 1961, *dans* Architecture Aujourd'hui, décembre 1961.

XI. AFGHANISTAN, KOUCHANS, HEPHTALITES

Histoire d' Afghanistan avant l'islam, *dans* Encyclopédie de l'islam (nouvelle édition), tome I, 1960, p. 232-233.

Bordj-i Abdallah, villes anciennes d'Afghanistan, *dans* Aritana, Revue afghane de langue persane, 1943.

Excavations by the French Archaeological Mission in Afghanistan, 1941-1942, Bégram-Kapici, Capital of the Kushan Empire, *dans* Gazette des Beaux Arts, vol. XXVIII, 1945, pp. 257-262, 10 fig.

Bégram, Recherches archéologiques et historiques sur les Kouchans, Mémoires de la Délégation archéologique française en Afghanistan, tome XII (=Mémoires de l'Institut français d'archéologie orientale du Caire, tome LXXIX), Le Caire, 1946.

Fouilles de la délégation archéologique française de Bégram (Afghanistan), dans *Kratkie Soobcheniya AN. S.S.S.R.*, Comptes Rendus de l'Académie des Sciences de l'U.R.S.S., vol. XIII, 1946.

Fouilles de Bégram (Afghanistan), *dans* Journal Asiaticque, 1947, pp. 59-71.

Les Chroniques Héphthaltes, Mémoires de la Délégation archéologique française en Afghanistan, tome XIII (=Mémoires de l'Institut français d'archéologie orientale du Caire, tome LXXX), Le Caire, 1948.

Quelques intailles du Musée de Calcutta, à légendes en tokharien, pehlevi arsacide et pehlevi sassanide, *dans* Archaeologica Orientalia in Memoriam Ernest Herzfeld, New-York, 1952, pp. 102-115, 11 fig.

Une intaille héphthalite de la collection de Mrs. Newell, *dans* Numismatic Chronicle, 1953, pp. 123-124.

Un décadrachme kouchan inédit, *dans* Mélanges L. Masignon, vol. II, 1957, pp. 259-267, 1 pl.

Le problème de la chronologie des Kouchans, *dans* Cahiers d'histoire mondiale, vol. III, 1957, pp. 689-722.

Nécrologie d'Alexandre Natanovitch Bernham, *dans* Artibus Asiae, vol. XX, 1957, p. 187.

(Les titres marqués par * ne sont pas encore inspectés par K. Enoki.)